

か、そのほか全国でも何か腹蹴ったとか、教師が。そういうのがどんどん出てくるんですけども、後になってからどこかから出てくるという、そういうのって非常に問題だなというふうに思うんですね。

市長も言いましたし、私も冒頭の質問の中で申し上げたように、事実をまず報告しなかった、それが今度は事実も隠蔽しようとしたというのが、非常に今回の、特に長井の問題についてはそうだろうと思ってますけども。ぜひ、再度、当然根絶でやろうっていても、何かちょこっとしたことが出てくる可能性はないわけではないわけですし、もしあったとしても、そこはちゃんと事実を事実として報告できるような、報告するような、そういうシステムこそやっぱり学校できちっとしておかなきゃいけない、それに正しく対応する、そのことをもう一度反省点にして、さらにプラスの対応策を考えていくという繰り返しじゃないかと思うんですけども、その辺について、ぜひ今後ともきちっと対応できるような体制をとっていただきたいということを申し上げて、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

午後 2時57分 休憩

午後 3時20分 再開

○小関勝助議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

梅津善之議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位10番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 9月定例会最後の一般質問になります。皆様、お疲れだと思いますが、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

まさに実りの秋を迎えております。すがすがしい朝、空気を吸いながら高くなった空を見上げて、天高く馬肥ゆる秋とはこのことかなと思っております。

ただ、私の田んぼだけは、名前だけにほれてつくったひとめぼれが畳のように倒れておるのは私だけでしょうか。稲のことを考えずにたくさん肥やしをやったからかなとか、管理が不十分だったからだろうかなとか、土が合わなかったのかなとか。毎年倒しております。ことしはと思いがらつくるわけですが、やはり倒れます。この際、山形県奨励のはえぬきや、つや姫に品種を変更したほうがいいかなと、自分ながら考えておりますが、なかなか諦めがつきません。諦める勇気のない私に背中を少し押ししてもらえようようなアドバイスなどをいただければありがたいと思うのは、私だけかもしれないです。

では、通告に従いまして、人材育成について質問をさせていただきます。

まず、今、市民が心から望んでいるのは、精神、能力、両面において力強い職員がみずからの役割をしっかりと受けとめた上で、市民が将来に向けて希望を持って、市全体を支えていくことであると考えます。幹部の職員はもとより、職員全体が、どんなに困難な場面でも市民の期待する成果を出していかなければならないと考えます。各分野の専門家として、知識の能力、また担当分野の垣根を超えた、全体に奉仕するにふさわしい意識や能力を備えなければならないと考えております。

しかし、事業を通じて教育、訓練、いわゆる

OJTとスキルの向上のための研修に対して、市全体に奉仕する人として共通の教育は質、量ともに不足していると思います。

経済社会の情勢が大きく変化して、行政が目に見える形で市民生活に積極的な役割を果たすことができた時代から、急速な少子高齢化や人口減少により、市民に必要な財政支出を行うことが大変になってきているものだと考えます。

市では職員の研修など積極的に行っているようですが、その研修などで気づきにより自学を促し、自学によって育つ職員、よい行動性を習慣化できる人材であり、キャリア自立ができていく人材である、このような人材が多く育っている自治体は、これからの地方分権においても確実に成果を出し、良質で効率的な住民サービスが提供できるのではないかと考えます。

人事評価制度の中で成果主義が取り沙汰される中、住民のありがとうという言葉が一番やりがい、充実感を覚える職員がいることも確かです。さらにそういった職員が丁寧な対応をしていくこと、成果主義一辺倒ではなく、多様な価値観を提供できるよう受け入れられる度量のある市が、これからの市民に満足につながっていくと考えます。ますます高度化、多様化する行政需要に的確かつ迅速に対応できる必要があります。職員には、より高度な知識や能力、資質を備えることが従来にも増して強く求められています。みずからの課題を発見して解決していく力を身につける必要性や、仕事を通じた人材育成と強化、組織一人一人の一層の能力向上と職場の活性化を図る必要があります。職員の一人一人が自分たちのまちをよくするという使命を果たすために、人材こそが最も重要な経営資源との認識を持ち、効率的な行政運営に質の高いサービスを提供し、個性豊かな独自のまちづくりと、創意工夫で魅力的な政策を生み出していかねばなりません。

また、情報を公開し、説明責任を果たし、市

民の皆様には納得いただける施策を展開したり、市民と協働のまちづくりに取り組んでいかなければなりません。

では、まず、市の職員の研修は現在どのようなものが行われているのでしょうか。研修を受けて、職員はどのように変わったのでしょうか。

研修での成果は現場でどのように生かされると考えていますか。課内で職務が縦割りになっていないのでしょうか。

若い職員の育て方はどのようになされているか、お聞かせください。

職場のコミュニケーションはうまくいっているのでしょうか。

さらに、今後5年から10年で職員の年齢構成が大きく変わってしまうと思います。この辺はどうお考えでしょうか。ぜひお聞かせください。

次に、長井の観光振興についてです。

長井といえば花観光。桜、つつじ、あやめ、はぎ、1年の半分以上を四季折々の花が咲いて、観光の一つとなっております。

ただ、それだけでは観光のメインになることなどは考えておりません。今定例会にも山形Destinationキャンペーンということについての予算の提案がございました。ぜひその中身、狙いは、長井市の観光のブラッシュアップなど指導を受け、観光資源の商品化の可能性を図るとありますが、市民と一体となった観光資源の開発が必要ではないかと思えます。まさにどこにもない隠れた観光資源を見つけ出してつっていくことが大事だと思います。

長井市にある観光イベントの観光は、花観光です。大変素晴らしいことではありますが、通年の観光をぜひ考えるべきではないかと思っております。

その一つに、農業を体験型にして観光に生かせないかということです。よくあるサクランボ狩りとかブドウ狩りということだけではなく、種をまいて収穫する一連の中にかかわりを持つ

て、常に長井においていただく、そのような観光もあっていいのではないのでしょうか。

また、山形県民は雑草を食べると、金曜日の高橋議員の一般質問にもございましたが、ヒョウ干し、ナス干し、ズイキ干し、莖立ち干し、大根干しと、さまざまな干し物が長井の食生活の中にございます。これはまさにどこの地域にもない、隠れた観光資源の一つ、食を味わう一つではないかと私は思っております。そのようなことが観光に生かせないだろうかと思っております。

さらには、なかなか見ることができなくなりましたが、虫をとって食べる、イナゴ体験グルメツアーであるとか、さまざまなことが長井の観光としてできる一つにあると思います。

ぜひ、行政だけではできないことだと思えます。市民一体となった観光資源、それもどこにもない隠れた観光資源の一つをつくり出しながら、長井の観光を守り立てていくことはできないのでしょうか。

さまざまある体験型でありますとか、昔ながらの食を生かした観光をぜひ長井の観光に生かしていけることをお願いして、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

まず、最初の人材育成について、私のほうから全体的なところを触れさせていただきたいというふうに思います。

梅津議員がおっしゃるように、人材育成ほど大切なものはないというふうに考えておりますが、やはり残念だったのは、特に平成13年から17年までの財政再建5カ年計画、また平成18年から平成22年までの集中改革プラン、その中でどうしてもいろいろな予算を削減する際、市民の皆様のサービスをできるだけ低下することの

ないようにということで、旅費とか研修費とか、そういったものを真っ先に削りました。これはいたし方なかったというふうに思います。

また、約15年ぐらいにわたる行財政改革の中で人を大分減らしてまいりましたので、そういった意味では今まで長井市の職員の皆さんにはいろんな意味でご苦勞をおかけしたというふうに思います。

ただ、そんな中でも、やはり人もお金もない中で知恵をめぐらせて、市民の皆様のご協力のもとに何とか財政再建を果たし、いよいよこれからということをございますけれども、そこには梅津議員ご指摘のとおり、職員の構造的な問題がありまして、ベテランで一番今、支えていただいている、年齢的には50歳代の方々が、今後10年間で相当程度退職されるということで、その後の対応が非常に重要になっているというふうに思います。

特に職員の年齢構成が、今後5年から10年、退職予定者は100名を超えております。来年の3月の末で定年退職される方、またそこにいろいろな事情があつて退職勸奨を受けられた方を含めると20名近くなります。そういった方々が1年で退職される時代がもう来たということをございます。

現在290名近くいるわけですが、3分の1がこれから5年から10年で退職されるということをございます。特に管理職の退職が大きく影響すると思えますので、組織としての管理能力と市政の推進力が低下しないように、その対応が重要だと思っております。このままですと、来年のやはり3月いっぱい、管理職の方も20名中相当程度いらっしゃいますので、そうしますと、ことし大きく管理職を入れかえをせざるを得なかったわけですが、また来年、1年でかわる管理職もどうしても出てしまうのかなということで、その対応に今から、まず組織も含めた検討が必要だというふうに思っております。

一方で、新しい職員でございますけれども、現在の長井市の状況を理解し、研修にも積極的に取り組む姿勢が見えますので、こうしたところを伸ばすためにも研修の受講の機会は確保したいというふうに考えているところでございます。このために、平成23年度に新たに長井市人材育成研修プランを作成いたしまして、平成27年度までの5カ年計画で、職員の世代交代と行政需要に対応できる職員育成に今、取り組んでいるところです。新しい職員も、職員の10年間の採用計画をつくりまして、最初の5年間は約14名前後、そして後半の5年は約10名ということで、今後10年間で120名の採用をします。一方で退職をされる職員は140名ということで、それでも20名減るといようなことですが、これを平成21年度から策定いたしまして、現在それに従って今、進めているところです。

若い職員が議員から見ても非常にふえてるというふうにお感じだと思いますが、特徴としては、かつての長井市職員の新採というのは、学卒が多かったです。高校を卒業してすぐ、あるいは短大、大学を卒業してすぐという職員が大多数を占めておりましたけれども、最近では3分の1程度ぐらいは民間企業に勤めてきた職員が多くなっておりまして、大分民間で培った、例えば待遇、市民に対する対応とか、あるいは仕事の仕方というの、少しずついい意味で市役所の業務の中にも反映できるような状況になりつつあるのかなというふうに思っております。

研修の内容については、詳しくは総務課長のほうからも後ほど答弁がございしますが、大きく分けると、山形県の研修所や市町村中央研修所というのがあります。あと東北自治研修所への派遣研修と、あと長井市独自の独自研修。例えば管理職のほうから財政課長が出て、あるいは財政課の担当の主査とか補佐が出て、詳しい財政のことを教えたり、あるいは総務課のほうから市全体の行政の仕組み、やはりちょっと本

当にびっくりするんですけども、職員になっても国、県、市町村の役割分担もよくわからないというのはいらっしゃいますんで、そういったところからやっぱり再教育も必要だというふうに思っているところです。

あと独自研修では、職制ごとの研修や危機管理の研修のほかに、山形大学人文学部の協力で実施している政策法務研修というものもございまして、本年度が2年目で、全課程を修了する予定です。また、市民未来塾への参加も募集し、職員も大勢参加しております。特にここ数年は新規採用者の人数が多くなっておりまして、公務員として必要とされる基礎的な知識や倫理観を身につける職員研修も実施し、職場内においても丁寧に指導し、業務に支障のないよう努めていきたいと考えております。

また、私が市長に就任しましてからは、職場内の意思の疎通や市民サービス向上のために、毎朝朝礼を行うことで課内の日程の確認や協力体制の調整ができるようにいたしました。さらには、市民のために迅速でわかりやすく親切な対応を心がける、いわゆる3S運動というものを平成21年から進めております。スピード、シンプル、それからスマイルですね、一番最初にスマイルが来るわけですね。去年からは新3S運動ということで進めているところです。この中で、毎月の自分の行動をチェック、確認し、報告してもらってます。まだまだこういった活動は形骸化いたしますんで課題もたくさんありますけれども、今後ともより市民に評価していただける、市民が安心して市役所を頼っていただけるような、そんな市役所であり、職員になるよう、努力してまいりたいと考えております。

次に、2点目の、長井の観光振興についてお答え申し上げたいというふうに思います。

梅津議員からは具体的な提言をたくさん頂戴いたしました。おもしろいアイデアをたくさんいただきましたんで、ぜひこういったところは

市民の皆様と一緒にってつくっていかなきゃいけないというふうに思っておりますが、まず最初に、私のほうから、山形DCデスティネーションキャンペーンの狙いはということと、(4)の地域を巻き込んだ観光をというところについては私からお答えし、それ以外の部分は観光振興課長から答弁いたさせます。

まず最初に、山形県全体で進めているデスティネーションキャンペーン、これは通称で山形DCといっているわけでございますが、これについて説明します。

デスティネーションキャンペーンは、JRグループ、6社あるわけですが、全国展開する国内最大の観光キャンペーンで、これまで100回以上開催されまして、1年間で何回も開催するわけですね、1年間の中で冬は京都というふうに決まっています。それ以外の春と夏の部分ですね、秋の部分、これを大体3カ月単位ぐらいで、1年間に4回ぐらいDCというのを実はやっておるんです。

山形県で開催されるのは10年ぶり6回目ということだそうございまして、前は平成16年で、この年度の山形県の観光客が4,226万9,000人を超えまして過去最高だと言われております。この記録は今も破られていません。現在は東日本大震災の影響が残りまして、平成24年度の、昨年の山形県の観光客が3,817万6,000人と、震災前の状態に戻っておりません。こうしたことから、観光関係者の山形デスティネーションキャンペーンへの期待は大きいものがございます。

山形デスティネーションキャンペーンの期間は来年の6月15日から9月14日までの3カ月間ということでございまして、過日、8月の末に山形市のJRで経営しているメトロポリタンで全国販売担当者会議というのが400名集まりまして開催されました。非常に山形県のほうでつくったプレゼンテーションのDVDの評判が非常に良かったんですけども、その中で県内4地

区でそれぞれ2名ずつぐらい、県民の方が、あるいは業者さんなんかプレゼンテーションをしたんですけども、置賜からも私も長井市のほうの山形鉄道と黒獅子の里案内人の、これは女性の四釜さんと、それから米沢市の白布温泉の方がされましたけども、非常に長井の黒獅子が、実はつや姫号という山形新幹線つばさの特別列車で、東京発山形まで、その販売者会議しますんで、そこに乗っていただいたんですが、そこに長井の總宮神社にご協力いただいて、黒獅子を、もちろん氏子の皆さんからご協力いただいて、新幹線で黒獅子が練り歩いたということで、非常に評判がよかったです。販売会議の後、メトロポリタンのところで、駅の改札口も含めて練り歩かしまして、非常に話題になって評判がよかったということでございます。

今回、補正予算の審議をしていただいている長井市の事業について説明したいと思います。

この事業は、山形デスティネーションキャンペーンを来年に控えて、今年度中からエージェント向けに誘客活動を展開しようという事業でございます。来年の6月の15は、ちょうどあやめ公園のあやめまつりの開会とダブるわけですが、今からエージェントの皆さんに長井の、ことしじゅうに、年末ぐらいまで、長井の商品化、いろんな商品の中に長井を組み入れていただかなきゃいけないということで、ことしじゅうに、9月に補正をいただいて、そういった活動を展開しようということでございます。

JRやJTBなどの旅行業関係者を招きまして、観光市場の動向などの情報を得るとともに、観光に従事している現場の視点から、長井の観光資源のブラッシュアップなどについて指導を受けながら、観光資源の商品化の可能性を探っていこうというものであります。

また、ことし今回の予算の中でお願いをしております、山形鉄道に委託する予定ですが、JTBの情報誌「るるぶ」というのがございます。

それに長井の特集号をつくっていただいて、それで商品化にしようというようなことなども考えているところです。

今回の事業を企画した背景には、過去のdestinationキャンペーンで長井市はその恩恵をほとんど受けなかったということがあります。前回の平成16年、その前の平成12年、その前の平成4年に、それぞれあやめ公園を訪れた観光客数を調べますと、前年度とほとんど変わってないという状況です。知名度で劣る長井市では、特別な取り組みをしないと、山形destinationキャンペーンをしているといっても長井市への観光客はふえず、蔵王や山寺といった有名地に、あるいは温泉街に観光客の足が向いてしまいます。そこで、実際に旅行商品をつくって、何とか長井市へ観光客に来てもらうきっかけをつくりたいというのが今回の事業であります。

また、旅行商品をつくったからといって、すぐに観光客がふえるほど甘くないという認識も持っております。しかし、地元の皆さんが力を合わせ、知恵を出し合い、地元の旅行会社を通じて地元の旅行商品を売り出すことができれば大きな前進になると考えております。この経験は、隠れた観光資源を見出し、それを磨き上げ旅行商品に仕上げると、まさに先ほど梅津議員からいただいたようなアイデアを実際の商品にすると。それによってノウハウが蓄積され、また人材も育成されるということでございます。将来を考えれば、目先の観光客数という数値よりも人材の育成やノウハウの蓄積、市民と一体となった取り組みに主眼を置いて進めたいと考えております。

最後にもう1点。地域を巻き込んだ観光ということでございますが、梅津議員の質問の中で、ちょっと私の答弁の中には入ってないんですが、例えば農業を体験型観光に生かせないかということでございますが、それは後ほど詳しくお話

があるかと思いますが、答弁があると思いますが、やはり昔から言われているのは、観光客が先か、あるいはそういう観光客が喜んでもらえる施設サービスが先かというのがずっとついて回るわけですね。でも今回のDCキャンペーンというのは、山形県が注目されて全国のJR6社をはじめ旅行会社が山形県中心の商品をつくることは間違いありませんので、そこで長井に来ていただくということをきっかけにして、一緒になって商品もつくって育てていくということが重要だと思っております。

そこで、私どもが観光振興計画、この3月につくったわけですが、その委員長をしていただいた清水先生、JT Bの元常務さんのお話によりますと、観光を行政が一生懸命やったところで、成功した事例はありません。それは、行政が幾らやっても、民間の方、一生懸命進める人がいないとこれは絶対無理なんですと。行政が商売をやるんではありませんということを常々、何回も言われました。

したがって、例えば農業体験なんかも、観光というより交流観光みたいな形で、今進めてます、平野でしたらグリーンツーリズムという、ありますよね、梅津さんが会長をなさっている、川崎市と交流している。そういう人たちとか、あるいは今、長井では今までは伊佐沢中心だったんですが、これから平野地区でも、あるいは西根地区でも致芳地区でも受け入れてくださるということなんです、教育旅行、こういったところは、もう観光じゃなくて交流体験観光なんです。やっぱり交流ということで、それがリピートになるような、ずっとつき合えるような、そんなことを心がけなければいけないと。

やっぱり主流は、農家の受け入れがあるからできるんですね。そうすると、例えば我々行政のほうでつくったとしても、農家のほうに乗ってこないと全然できないわけです。ですから、

むしろ今回をきっかけに一緒になって作り出すということが必要なのかなと思いますし、一番難しいのは、観光はプログラムをつくったり、例えばそういう農業体験だったら。あとコーディネートする人がいないとなかなかうまくいかない。でも教育旅行の中で長井市内でも農家民泊みたいな、そういうことをプログラムつくったり、あとコーディネートできる人がだんだん出てきてますんで、今回をきっかけに大きく成長したいというふうに思います。

地域を巻き込んだ観光というのはもちろん梅津議員のおっしゃるとおりで、やっぱり地域というのは、地域の皆さんには観光業には関係ない人がいっぱいいらっしゃるんですが、それでも外から来たお客様に、それこそ東京のオリンピック、パラリンピックが決まった大きな要因の一つというのは、おもてなしの心ということでありますんで、地域の皆さんでおもてなしをするということ、どういうふうに機運を醸成し、また実際にそういう全員がボランティアガイドになってもらうような取り組みをしていくということが重要だと思っております。ぜひ議員のほうからもいろいろ具体的にご提言いただければありがたいというふうに思います。私からは以上でございます。

○小関勝助議長 中井 晃総務課長。

○中井 晃総務課長 梅津議員の人材育成についてのご質問にお答えいたします。

先ほど市長から基本的な方針の答弁がございましたので、私からは具体的な研修への取り組みにつきましてお答えさせていただきます。

初めに、どのような研修を行っているのかとのご質問でございますが、具体的な研修といたしましては、県の研修所等で各職制に応じました職務研修と、専門分野ごとの研修を行わせていただいております。平成24年度につきましては、市町村中央研修所の研修で住民課税事務、東北自治研修所の研修では管理職研修といたし

まして説得力表現力向上コース、山形県の研修所の研修といたしましては、昇任した際に受講します課長級職員研修や係長級職員研修から、政策形成能力向上研修やクレーム等対応研修といった研修課程を受講させていただきました。

そのほか市独自、または置賜で共同して講師等を招きまして実施しております研修がございます。独自研修は、新規採用職員研修、接遇研修、メンタルヘルス研修等を行わせていただいております。

24年度の研修所等への派遣研修には142名、独自研修へは延べ504名が受講をしております。

続きまして、研修は現場に生かされているのかとのご質問でございますが、研修を受講しました職員は復命をいたしまして、共有すべき事項等があれば、係内、課内で勉強会を開催し、有効な活用を行わせていただいております。

研修の成果は一朝一夕に出るものではないところがございますが、成果は少しずつ出てきているというふうに考えております。最近の収納率向上につきましては、課税徴収部門の研修受講と研修後の課内での取り組みにつきましての勉強会を行っていただきまして、収納率の向上を図ることができたというふうに考えております。こうした研修も収納率向上の成果を上げることができた一因であるというふうに考えております。

次に、課内で職務が縦割りになっていないかとのご質問でございますが、新たな業務も増加しておりますし、担当業務が専門化、分担化しまして、難しい業務内容がふえてきているというのも事実でございます。これは地方分権によりましていろんな業務が市町村のほうにおいてきておりますので、市町村が判断しなければならないというふうな業務もふえてきております。

そういった細分化しているというのはございますけれども、毎月課内会議を開催していただきまして、業務の協力が必要な場合の調整や横

の連携ができるような体制をつくっていただいております。この会議の内容につきましては、三役にも報告をしていただきまして、庁内全体の情報共有にもなるように努めております。

また、市長の答弁にもございましたけれども、毎朝各課で朝礼を行いまして、当日の予想される市民の来訪に対しましてどのような対応が必要なのか。例えば担当者が不在の場合はほかの職員がどのように対応すべきかなどの確認ができるようにしておりますので、業務が縦割りで担当者がいないとわからないといった状況をできるだけ減らすような努力をさせていただいております。

次に、若い職員の育て方をどのようにしているのかとのご質問でございますが、市長の答弁でもございましたが、近年は退職者が多く、新規採用の職員も非常に多くなってきております。このため、新規採用職員研修では接遇研修や地方自治制度、地方公務員制度等の研修を行わせていただいております。さらに2年目から3年目の職員には、公務員として求められます資質ですとか心構え、長井市のまちづくり研修を行わせていただいております。そのほか日常的な業務を通じまして、できるだけ早く事務や事務処理に当たっての心構え、基本的な事務処理技術、ノウハウを身につけていただけるように各課で指導をしていただいております。

最後に、職場内のコミュニケーションはうまくいっているかとのご質問でございますが、各課ごとに毎月の庁内会議と毎朝の朝礼を行っておりますので、課内の業務について連絡、調整ができるような体制をとらせていただいております。

加えまして、ことしの6月からは、各職員が使っておりますパソコンの庁内ネットワークの中で各職員のスケジュール管理ができるようにさせていただきましたので、ほかの職員の業務状況もできるだけわかるような体制が今とられ

ております。

これからもこうしたシステムやいろんな会議を有効に活用いたしまして、コミュニケーションがうまく図れるように進めていきたいというふうに考えております。

ただ、コミュニケーションにつきましては、個人ごとの性格によるところも大分ありますので、そういったところのギャップをなるべく減らしまして、いろんな研修なり職場内での交流を通じまして、市民に信頼してもらえような市役所づくりのためのコミュニケーションが活発に行われるような庁内体制をこれからも築いていまして、市民からの苦情が減り、できるだけ評価が高まるよう努めていきたいというふうに考えております。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 私のほうから、ご質問の2、長井の観光振興についての細部の部分、(2)隠れた観光資源とは。それから(3)の、農業を体験型観光に生かせないかという部分を中心にして答弁させていただきます。

長井市の代表的な観光資源といえば、あやめ公園でございますけれども、これ以外にも隠れた観光資源はたくさんあるかなと思っております。

例えば梅花藻ですね。梅の花の藻と書く梅花藻ですけれども、名前のとおり梅の小さな白い花、梅のような小さな白い花を咲かせる水草でございます。中央地区のちっちゃな川にたくさん生えておりまして、流れがきれいなところに、その白い小さな可憐な花を咲かせていると、ああ、きれいだなというふうなことで、長井の水のきれいさを象徴する一つのいい素材かなと思っております。

紅葉も長井の大事な隠れた観光資源の一つかなと思っております。これから間もなく紅葉の季節が始まるわけですけども、知名度は長井の場合、余りありませんけれども、長井ダム周辺

や古代の丘などの自然の紅葉もかなりきれいかなと思いますし、やませ蔵や丸大扇屋などの旧邸の庭園というのも見事なものかなと思っています。

これらは全て一例にしかすぎなくて、たくさん長井にはあるわけでございますけれども、これらの風景は長井の人にとって美しいというよりはごく当たり前の風景になってしまっているということがあるのかなと思います。よその人に言われて、初めてそのよさに気づくということが多いかと思います。

どこにもない観光資源、こういったものをぜひ欲しいものだと思っていますので、そういったものを探す努力をこれから重ねていきたいと思っています。

農業体験も隠れた観光資源の一つかと思っています。田植えや稲刈り、果樹などの収穫体験、いろいろ考えられます。教育旅行では、都会から来た子供たちが農業体験をして喜んで帰っていきます。体験型観光はこれからの観光の主流というふうになっていくと予測されていますので、有望かなと思っています。

これらの商品を旅行商品として実際売ろうとすると、いろいろ難しいこともございます。例えば田植えや稲刈りでございますと、長井でなくてもできる体験ということで、ほかの市町村でもいろいろやっております。つまり全国の市町村がライバルということになります。また、体験型観光には感動という、お客様に感動を与えられるかどうかということが一つ大事な要素になります。それを体験したお客様に、これいいね、へえ、そうなんだと感じてもらうために、それなりの演出が必要かなと思っています。その意味で、議員からご提案をいただきましたイナゴとり体験、それからヒョウ干しグルメツアーとか、大変インパクトがあって大変いいかなと思っています。

人材も大切かなと思っています。体験して

もらうには、それを指導できる人材が必要で、誰でもできるわけではないということで、それなりの専門家を育てることも必要と思っています。

あと体験プログラムの数も重要で、一つだけでは集客力がございませんので、たくさんメニューを用意して、そこから選択できるようにするということが大事なのかなと思います。稲刈りだけでは可能な時期が限られていますから、そこから派生しているような芋掘りだとか畑の耕うんだとか餅つきだとか、いろんなメニューをたくさん考えていろいろ用意するということが大事かなと思っています。

このように農業体験の観光化には難しい点もありますが、魅力も同時にたくさんあるというふうなことで、いろいろと挑戦していきたいと考えております。

農業体験をした観光については、中学生等の教育旅行受け入れ、それから大田区交流での農産物等の収穫体験、また農協さんで、JAさんでの生協との交流などでいろいろやられております。こういった農業の各種体験等で農産物や農業に対する理解が深まればいいなど。そして、農村と都会との交流、さらには農産物への販売と結びつけていきたいと考えておるところでございます。

農業体験の受け入れ体制につきましては、長井市グリーンツーリズムネットワークという組織によりまして、農業体験、そば、ピザ、みそづくり等の体験、山岳観光、田舎料理でのおもてなしと、体制やメニュー等は少しずつ整ってきております。しかし、ツアーを企画して商品として売り込むというほうがまだまだ弱い状況でございます。自然嗜好や体験嗜好が高まっている中で、農業を観光に生かすということは可能であり、また必要なことであるというふうと考えております。以上でございます。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 それぞれ答弁ありがとうございました。

総務課長にちょっとお伺いしたいと思います。

朝礼もしてるし、コミュニケーションも大丈夫だと、こういうお話でございましたけれども、業務が専門化して非常に難しくなってるという話もお聞かせいただきましたし、一番私が現場でしているわけでないのに非常にわからないところもあるんですけども、私の仕事はここまで、その次はあなたみたいな、仕事かもしあるんだとしたら、非常にこれは問題だななんて、一つ思ってるところがあります。前の人が仕事が終わらないと次の人に来ないとか、例えばそういうことがあって、仕事ができない人は悩んで遅くまでしなきゃいけなくなったり、そうでない人はお先にということが、ないとは思いますが、業務の中で自分に例えば関係ないことはないと思うんですね、課の中で。お互い連携をとったり、わからないところなり教え合ったり、いなくてもできるような体制というのは非常につくっていかねばならない。業務が私、詳しくわからないから、そこまでできるかどうかわからないんですけども、そういうことは非常に必要だと思うんですけども、課長、どういふふうにお考えでしょうかね。

○小関勝助議長 中井 晃総務課長。

○中井 晃総務課長 業務内容につきましては、場合によりましてはその人以外、あるいはその専門的な知識を持ってないとできないというふうな業務もありますので、一部そういったことはあるかと思えます。

ただ、かなりの部分につきましては、いろんな職員が協力することができたり、あるいは毎年人事異動がありますので、過去にそういった業務を経験したことがある職員がいたりしますので、いろんな面での協力は可能だろうというふうには思っております。

実際に課を超えて、職員が研修等で不足するので協力してほしいというような要請がありまして、課を超えて協力をしたりするような調整もさせてはいただいております。

ただ、梅津議員がご指摘のように、場合によっては、その職員によりましては、自分の仕事以外は余り積極的にほかの人のその仕事を協力しようというような意識がちょっと弱いという職員が確かにいることも事実だというふうには考えております。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 何となくわかるんですけども、ぜひそういうふうなことの意識改革といいますか、自分の仕事が終わればなんていう方はいらっしゃらないと思いますし、先ほど市長から、5年から10年で100名の方も入れかえはあるという話もございましたので、ぜひこれからの方には新しい認識というか、自分の仕事ということはもちろんですけども、型にはまらず、課内外を含めて興味を持って市民のために頑張ってもらいたいような職員の育て方なんていうのが必要ではないかなと、私自身思ってますし、これはちょっと市長にお伺いしたいんですけども、私も従業員を何人も使ってやっています。そうすると、代表である指示する人の言葉言葉というのが非常に大切なんですよね、その日やる気が出るかそうでないかも含めて。職員に対する接し方であるとか育て方、やっぱり一言一言、市長の一言一言が職員のやる気につながっていくような、そんな市長であってほしいなという思いを含めて、ぜひ市長の見解をお願いしたいと思います。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員おっしゃるとおりだと思います。ただ、私は全職員の仕事どんなことをやってるかって、もちろん全部把握し切れてはおりませんが、基本的に自分の担当の仕事は自分で管理する。サブで、例えば係長に見ても

らう、あるいは補佐に見てもらおうということはあると思います。しかし、自分の仕事はまずきちっと責任を持ってやんなきゃいけない。そういう、残念ながら縄張りというか、自分一人一人あるというのは、これは事務事業の数の多さから見ればいたし方ないところもあるだろうと。

ただし、何かプロジェクトを組んだときに、自分の持っている力も一緒になってそれを発揮するとか、あるいは今度は自分がサブで、誰かから協力してもらってるんで、その人がメインでやってることを手伝うということはやってるわけですね。

これはやっぱり職種によって違うんでしょうけども、例えば窓口業務みたいのでも、かなり高度な専門知識が必要ですし、市民の皆さんというのはいろんな立場でそれぞれの視点から質問したり要望したり、いろいろおっしゃるわけですから、それをきちんと説明できないと納得してもらえないですね。

ですから、そういった意味では、一つの仕事をみんなで応援し合うということももちろんあるんですが、あと一つ一つの仕事がより専門的で高度な知識が必要だという仕事が実は公務員の大部分、市の職員の大部分の仕事なんですね。ですから、そういった意味でいえば、我々上司というのは、例えば若い職員、あるいは主事、主任、係長クラスまでは、余り厳しく、課長はしてもらいたいですけど、私はしない。しかし、主査、補佐、課長については、やっぱり厳しく言わなきゃだめだと。あと同時に、いい仕事をしてもらったら、やっぱり評価をきちんとしなきゃいけないだろうと。それを私自身が課長に対して余り甘いことを言っちゃいけないし、課長自身から見て市長もあそこが悪いなってわかってるわけですから、それはお互いですね。反省すべきところはお互い反省しながら、上司として引っ張っていくということだと思います。

概していえば、やっぱり褒めて仕事をどんど

んやる気を出させ、そして伸ばしていくと。若い人たちの能力をいかに引き上げていくかというのが我々上司の責任だと思いますので、そこは梅津議員が会社をなさっている、事業所をなさっているから、事業主としての部分で、そういったところは共通するかと思いますが、ちょっとまだまだ私自身は反省しなきゃいけない点が多々あるなというふうに思っているところです。以上です。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 ありがとうございます。

ぜひ、完璧な人間なんていうのはいなくて、一人でできることなんていうのは本当に数が知れてるといっても、私自身も思ってますし、300人いらっしゃる職員の方の先頭に立って、ぜひ庁舎内をまとめて引っ張っていただきたいと思いますし、管理職の方にもぜひ若い職員の育成をしていただいて、スムーズな事務運営をできることをお願いしたいものだと思っております。

では、次に、観光振興について、観光振興課長にちょっとお伺いしたいことがございます。

先ほど来さまざま、私も含めて提言をさせていただきましても、やっぱり一長一短にできるものではないと思いますし、住民ぐるみといっても、じゃああしたからすぐなんていうわけにはいなくて、ぜひ今回のDCを機にという話でございました。私もそう思っておりますし、私自身も前から教育旅行なんていうのは非常に興味があって、都会と田舎の交流であるとか、そういうことを推進していきたいものだなと自身も思っていますので、1つ2つのメニューでなくて、たくさんあるいろんなメニューを、それも地域の人から提案していただいて観光に生かせればと思いますし、ぱっとしてぱっと終わるような観光ではなくてずっと続いていくような観光、さらには団塊の世代の方が退職なされて、そのような余裕のある方が田舎にも

う一度味わってみたい味でありますとか、そういうものをピックアップして観光に生かせたらと思います。この辺は課長、どうでしょうかね。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 議員のおっしゃることはごもっともだと思います。私もそのように考えておりますので、そのように実行していきたいと思います。

ちなみにせっかくいろいろご提言いただいているので、早速ちょっと調査してみました。イナゴとり体験ツアー、できるかできないか、まず調査することが必要なと思ひまして。まず、菜なポートに置いてないかなと、ちょっと調べましたら、残念ながら置いてありませんでした。まだ売ったことがないということです。ただ、ヒョウ干しとかいろいろ置いてあるものがあります。茎立ち干しがベストファイブの中の1番目で、2番目がさんごぐだち、3番目がアスパラ干し、4番目がゼンマイ干し、5番目にヒョウ干しが出てきておりますので、ヒョウ干しは地場産センターでもレシピつきでネット販売しているようにお聞きしましたので、そういった情報などを絡めながら、観光化の可能性はあると思ひておりますので、いろいろ調べて、いろいろな皆様からご意見をいただいて、ご協力をいただいてやっていきたいと思ひます。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 ありがとうございます。

ヒョウ干しはひょっとしていいことがあるとか、正月に食べると拍子いいことがあるとか非常に縁起いいとか、話のある食べ物でありますし、こういった食べ物があるのはこの辺だけかななんて、私自身も思ひてますので、ぜひ隠れた観光の一つとして。それに限らず、干し物ですね。先ほど菜なポートからご紹介がございましたが、びっくりしたのは、アスパラ干しとか、現代にあるようなものも干し物として、ゴーヤ干しとかも菜なポートに置いてありまし

た。私も拝見させていただきましたが、非常に通年を通してできることの一つとしてあるのではないかなと思ひておりますし、非常に健康にもいいということで、ぜひ観光に生かせたらいいかなと思ひております。ぜひそのような、長井しかできない観光をさまざま、お互い提案を出し合ひて、地域ぐるみでいけるような観光も取り組んでいきたいと思ひておりますので、頑張ってもらいたいと思ひます。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後4時15分 散会